

## 系外惑星の直接観測の将来計画

### Future Plan for Direct Detection of Extrasolar Planets

# 田村 元秀[1]

# Motohide Tamura[1]

[1] 天文台・光赤外

[1] Opt/IR, NAOJ

<http://optik2.mtk.nao.ac.jp/~hide/hide.html>

1995年の主系列星を周回する巨大惑星の発見以来、既に系外惑星の数はほぼ120例にのぼる。最近では、ドップラー法と独立な方法であるトランジット法の成功やアストロメトリ法の応用も成果を出している。しかしながら、こられは全て間接的検出であり、系外惑星を直接に撮像した例はまだ無く、次のマイルストーンはその直接観測にあることは間違いない。

本講演では主に、今後約5年のタイムスケールにおける8-10mクラス望遠鏡を用いた「木星型惑星の直接観測」の可能性と、10-20年のタイムスケールにおける3mクラス以上のスペース望遠鏡あるいは30mクラス以上の地上超巨大口径望遠鏡を用いた「地球型惑星の直接観測」の可能性について紹介する。